

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300241		
法人名	株式会社 あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム北本		
所在地	埼玉県北本市中丸4丁目51-5		
自己評価作成日	令和 6年 1月 10日	評価結果市町村受理日	令和6年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が楽しめるようにレクリエーションを充実させる取り組みを実施 ・感染対策を講じながらキッチンカーやケータリングサービスを招致し活用している ・施設の花壇で野菜や季節の花を入居者様と一緒に育てている ・音楽療法を感染対策を講じながら実施。音楽の力を活用し、入居者様の心身の充実を図っている ・ご家族との繋がりを大切に、意識しながら取り組んでいる <p>面会、外出、外泊について、感染対策についてご理解を得ながら、ご家族の協力のもと実施している。 電話や毎月のお手紙、動画などを活用し、入居者様の様子を伝えている。施設の取り組みや入居者様の様子が分かるよう、InstagramといったSNSを活用し内外へ発信している。1日1日を大切に、感謝の気持ちを忘れず支援している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6年 2月 15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接の緑地公園は、利用者の散歩コースでもあり近隣住民との交流にも活かされている。地域住民へも解放されている移動販売車やキッチンカーの来訪では会話も多く、緑地公園と併せ地域に密着した運営がなされている。市役所の一部を利用して行われる「活動展」は、地域密着事業者連絡部会が中心となり実施され、利用者の作品展示もあることから他事業所や行政とも連絡が密である。身体拘束適正化委員会では、本社研修委員会他の研修内容を内部研修にも導入する他、職員提案を受け、声掛けについてワークショップ方式での勉強会を実施している。認知症への理解を深めることを確認し合っている。また、訪問診療医との連携が充実したことから、終末期を迎える利用者や家族からの信頼度も増してきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、ホームの理念と目標を唱和し、業務に入っている。	朝礼では理念の唱和を恒例とするほか、全体会議等でも自立支援の大切さを共有している。認知症の改善への成功例として水分摂取を取り上げ、職員間でも効果の実感を話し合う機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、車での移動販売が来たり、キッチンカーが来て購入している。(パン、鯛焼き、クレープ)	近隣住民へも開放している移動販売やキッチンカーは好評である。牛乳やヨーグルト他乳製品の購入や、職員も利用するキッチンカーでは地域住民との会話も多い。教員課程での職場体験を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページやSNSなどを利用し、施設の取り組み、行事などで楽しく過ごしている様子を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は、職員に報告して、ケアに活かせるよう努めている。	今年度より対面式での会議を二カ月毎に実施している。市や地域包括、自治会役員の民生委員他と薬局からの参加もある。報告内容や服薬での質問、毎月訓練実施への近隣協力要請をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会に参加している。市担当者と日頃から相談などし、アドバイスを頂きケアに活かすよう取り組んでいる。	デイサービスを含めての巡回サービスがあり、都度の意見交換もある。市と地域密着事業所とで毎年実施している活動展へは、利用者作品の展示を行う他、来訪者アンケートを通しての情報交換もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士が随時話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は、ユニットフロアから死角となる場所にある為、入居者の安全を考え施錠している。	定期的に拘束適正化委員会を行う他、グループホーム協議会のオンライン配信での研修や本社研修などがある。職員からの提案で声掛けについてのグループワークも実践されている。認知症の理解に努めることが拘束廃止に大切なことを共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や社内勉強会に参加し、職員間で情報共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、それらを必要とする入居者へ活用している。また、個々の関係者と話し合いし、最善となる支援ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に内容を細かく説明し、質問があればいつでも対応できるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け中止している。利用者や家族等の意見は、電話や面会時など随時お聞きし、それらを運営に反映させるよう努めている。	外出や外泊を含め予約制での面会を許可している。来訪時には居室で15分の談話の後、近況報告と意見交換をおこなっている。コロナ期に対しての激励の言葉を受けることもあり、家族会の再開を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回代表者会議、2ヶ月に1回全体会議を設け、係活動や本社委員会など取り組みについて、情報共有する場を設けている。また、職員の提案などは随時に聞き、反映できるように努めている。	全体会議で意見交換をするほか、各ユニットリーダーとの代表者会議で広く意見の吸い上げをおこなっている。利用者へのケア方法での意見は、アドバイスの先に職員の意識を大切とし、考えて貰うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、各拠点の施設長会議を実施している(現在はリモートで実施)各施設の施設長と本社間で情報共有し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修について、勉強会や事例発表を行っている。勉強会の内容については、職員にアンケートを実施し決定している。外部研修について、全員がいずれの研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所と一緒に、市主催地域密着型サービス事業所活動展に参加している。地域密着型サービス事業所連絡部会や、ケアマネ会に参加し、他事業所と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や、本人から話を伺い、困っている事や要望を把握できるよう努めている。また、そこから本人が安心できる環境や関係作りを築けるよう、職員間で情報共有しながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所して頂いたときや、電話連絡の際に、本人の様子をご家族へ伝え安心して頂けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族それぞれの想いを受け止めて、その人に合ったサービスができるよう考え、実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のそれまで生きてきた人生史を大切に考え、その人が出来ることを見極め、家事などにこだわらず「役割」を持っていただき、その人が安心して生活できる環境づくりが提供できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡可能と伝えている。また、医療面の相談を随時家族としている。入居者のちょっとした変化や、日頃のさりげない様子をお伝えし、職員と家族がとともに支えていると感じて頂ける関係性作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に馴染みの場所などをお聞きし、必要であれば職員も付き添い、その場所へ行けるよう支援している。	学生時代の友人や以前の住まいでの知人が来訪されることがある。週に二回、自宅のペットに会いに行く利用者もある。趣味のクラシック演奏会へ出掛けたり、家族同伴で美容院やお墓参りに出掛ける人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや音楽療法、行事などで入居者同士が会話できるよう声かけしたり、関わり合える環境を作ったりしながら、お互いに支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に訪問できるよう声かけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に合ったケアが出来るよう、その人らしさを大切にすることを心掛けている。困難な場合は、ご家族にも伺っている。	日々の会話から意向や希望を知るようにしている他、ニヤリホット報告を終礼で挙げ、いいこと探しから気付きを共有している。失語症の人等は、表情や態度、行動から感じるよう職員の意識を向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過について把握し、今までの暮らし方をなるべく変えずに生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスなどで、変化について把握し、その時々にあった支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の要望を聞き、生活全般の手助けが出来るように努めている。	介護計画の見直しは3カ月毎を基本としている。カンファレンスでは、居室担当者のモニタリングやスタッフ意見、音楽療法士、医療担当者、家族意向等から計画作成としている。家族への説明と捺印を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者と普段の何気ない会話や動作、行動などを見逃さず、申し送りや記録などで、他の職員と情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合せ、日常生活動作などの手助けを支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染状況により、地域の人たちとの交流を控えている。地域の人たちが気軽に施設に立ち寄れるように、移動スーパーへ場所を提供したり、キッチンカーを招致したりし、地域とのつながりを持つ取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、訪問診療を受けている。受診・通院が必要な時は、家族了承のもと、提携病院へ通院介助を行っている。	月二回の訪問診療は医師と看護師の来訪がある。夜間の相談も可能で、急変時の指示等も受けている。訪問歯科は週一回の来訪で、他眼科や皮膚科診療は家族同伴が基本であるが、職員が就くときもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は、相談しながら、日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話や面会時に相談し、情報交換している。往診時や、電話などで入院している様子などを把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を組み、家族・かかりつけ医、施設側と話し合い、方針を共有できるよう努めている。	入居時に重度化指針の説明を行い、看取りも出来ることを話している。変化があれば、医師・看護師・管理者で家族と今後の相談機会を設けている。今年度は5名の看取りを経験しており、職員へは研修も実施し変化を見逃さないこと共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習・勉強会を行い、急変時の対応に備えている。管轄消防署の協力のもと、AED講習会を開催し参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を交え、毎月1回様々な訓練を行っている。運営推進会議を通して、自治会の協力をお願いしている。	避難訓練は昼夜想定で年二回の実施がある。地震想定での訓練では、消防署員から耐火ガラスの確認等の講話があった。AED講習も実施し、自治会協力も依頼している。備蓄品は2階と外部に分け格納されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保しつつ、一人一人の心に寄り添った言葉かけや対応をしている	個人情報保護方針は契約時に説明し、個人情報ファイル等は名前が見えないような工夫がある。USB管理も徹底されている。研修は認知症研修の他マナー研修を通して、利用者の尊厳を守ることを学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの押し付けではなく、利用者の意思を尊重した対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションや会話を大切に、毎日の暮らしを不安なく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、整髪や髭剃りなどを支援し、清潔で健やかな生活を過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の趣向を把握して、無理のない食事を楽しめるように支援している	玉ねぎを切ったり、卵をかき混ぜたり等を進んでおこなっている。月一度のケータリングや昼食レクは利用者の希望を入れ喜ばれている。外食へも数名単位で出掛け、行けない人へは親子丼などを取り寄せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日々の健康維持のため、栄養摂取を考えて、バランスよく食事していただける支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔にすることは、健康維持につながる為、一人ひとりに合った口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、スタッフ同士が話し合いをしたうえで声かけを行い、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄パターンを掴み、トイレでの排泄支援を基本とし自立支援に向けている。トイレの場所が分からない人へは声掛けにも配慮がある。コロナ禍で廃用症候群化の方へは、立位と座位を確保することに努めた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修等を通して便秘についての理解を深め、ここに合わせてさんファイバー入りの水分や牛乳を提供している。併せて水分摂取と歩行の声掛けを実施し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミング、状態に応じてケアができるよう、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	リフト浴も含め、週二回の入浴を基本としている。入浴嫌いな利用者へは、職員が白衣を着てお医者さん効果を利用するなどの工夫があるが無理強いはしないとしている。ゆず湯や菖蒲湯は喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々と場合に応じて休息したり、生活習慣に沿って静養できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的、用法、用量などを理解したうえで服薬介助を実施し、服薬前後の様子を観察し、変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の過去の趣味や特技、生活歴を知り、楽しみや興味あることなどを取り入れたレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と隣接の公園へ散歩、市内の公園や温泉施設へ行かれた利用者様もいたが、外出支援は十分にできていない。今後は職員間で話し合い、ご本人の希望に沿った外出レクを企画し、実行していく。	隣接の緑地公園を毎朝散歩する人や、朝礼後の外掃除を職員と一緒にする利用者もある。初詣は近隣神社へ行き、桜等の花見ドライブも取り入れている。家族との外出も自由としており、お墓参りの帰りに食事を楽しまれる人もある。	コロナ禍での制限もあり、利用者希望に添った外出支援が出来ない期間もあった。家族も巻き込んでの外出機会を増やし、「ただいま」と、言っていた第二の家として育てたい思いがある。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がいないので、ホームで一括管理しているが、本人や家族の希望などに応じて、お金を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の許可があり、本人の希望があればかけて頂いている。毎年、年賀状を書ける方には書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の物を飾ったり、壁には利用者の写真や作品を飾っている。居室に家族の写真を飾っている方もいる。	共用リビングは陽当たりも良く、廊下奥にはソファを置き、日向ぼっこを楽しむ人もある。玄関前の花壇では、ジャガイモなどの家庭菜園の収穫もある。玄関には、四季の置物を置き、利用者作品や写真等を飾って団欒の場を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の日の当たる場所にソファを置き、好きな時間に思い思いに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの私物を持参して頂き、居心地よく過ごして頂けるように配慮している。	介護ベッドとエアコン、洗面台、クローゼットなどが備え付けてある。馴染みのものを持参してもらいが、コロナ禍では壁紙を模様のあるものに変えたり工夫もある。自分で掃除をする利用者も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合った支援を行い、安心して生活できるような環境作りを心掛けている。廊下には手すりが設置され、床はバリアフリーになっている。居室の扉には、見えやすい所に表札をつけている。		